ＫＥＷ５４１０の測定を正しく行うために

ＫＥＷ５４１０は、特長として現場に設置されている状態で手軽に漏電遮断器の試験が行なえます。

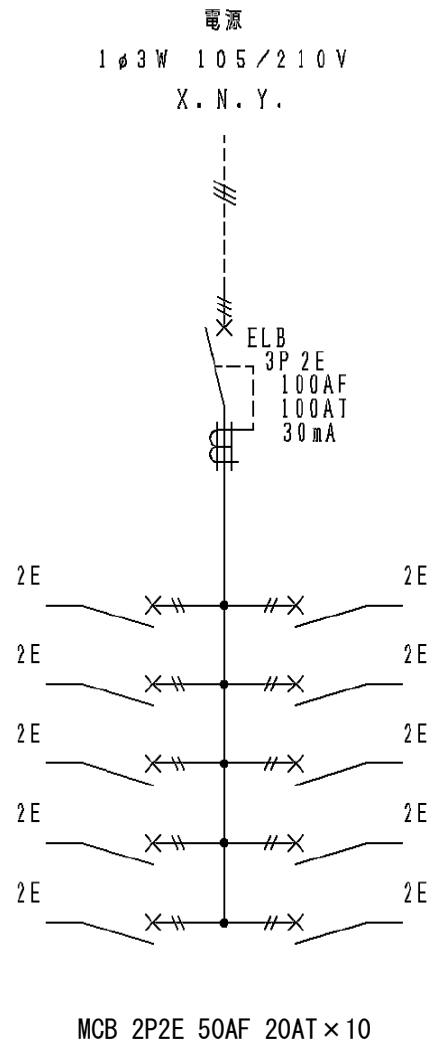
その性質上、現場で実際に漏れ電流が発生している場合、測定値（感度電流値）に誤差を生じます。

そのため、測定の際に下記の点に注意してください。

１．主幹が漏電遮断器で分岐がノーヒューズブレーカもしくは安全ブレーカの際には、分岐のブレーカを全てＯＦＦにしてから測定を開始してください。

例：図－１は、電灯盤で主幹が漏電遮断器で分岐がノーヒューズブレーカの場合です。

※ MCB 2P2E 50AF 20AT（100Ｖ）×10回路の全てをＯＦＦにしてください。



図－１

２．主幹がノーヒューズブレーカもしくはラグ端子で分岐が漏電遮断器の際には、漏電遮断器に接続されている２次側のケーブルの接続を全て外してから、測定を開始してください。

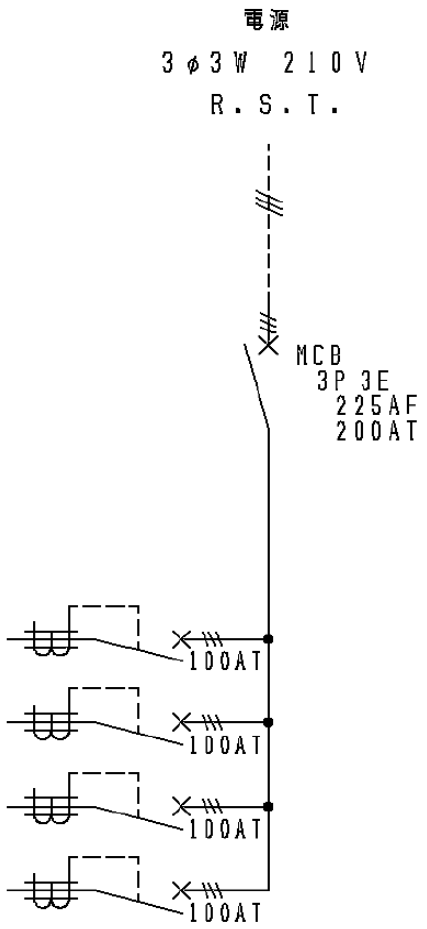
例：図－２は、動力盤で主幹がノーヒューズブレーカで分岐が漏電遮断器の場合です。

※ ELB 3P3E 100AF 100AT 30mA ×4回路に接続されている２次側のケーブルの接続を全て外してください。

３．引き込み盤、手元盤のように漏電遮断器が単独で設置されている場合にも２次側のケーブルの接続を外し、測定を開始してください。

例：図－３は、動力の手元盤で漏電遮断器が単独で設置されています。

※ ELB 3P3E 50AF 30AT 30mA ×１に接続されている２次側のケーブルの接続を外してください。



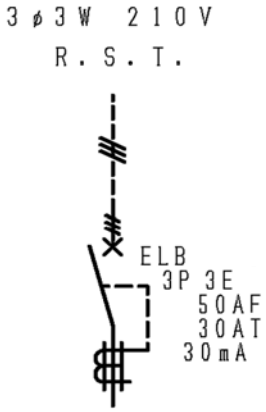
ELB 3P3E 100AF 100AT 30mA ×4

図－２

備　考：上記２、３の例の中で、どうしても２次側のケーブル接続を外せない場合、ＫＥＷ５４１０の測定値（感度電流値）にリーククランプメータで測定した漏れ電流値をプラスしておおよその値を算出することが出来ます。

仮に、リーククランプメータで測定した測定値が20mAで、ＫＥＷ５４１０の測定値が10mAとすると

20mA＋10mA＝30mAとなります。



図－３

※　上記、備考のリーククランプメータを利用した測定値（20mA）には、Ｃ成分および容量成分等が含まれている可能性があます。そのため、実際の漏電遮断器の動作電流とは、誤差を生じる事がありますので測定値は、あくまでも参考値とお考え下さい。